

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1271800581		
法人名	医療法人社団 明生会		
事業所名	グループホーム咲顔		
所在地	千葉県東金市東金1371-1		
自己評価作成日	令和3年1月1日	評価結果市町村受理日	令和3年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和3年1月28日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「あかるく やさしく あたたかい介護」を理念とし、ご入居者の「想い」を大切に、望む暮らしの実現のため、お一人おひとりに合わせた個別支援を行っています。お菓子作り、制作活動、歌唱、施設敷地内の掃除や散歩、家事活動など様々な活動によって、個性を活かした豊かな日々を送って頂けるようお手伝いしています。母体が医療法人である事から医療面のサポートも充実しています。24時間オンコールの医療連携看護師を配置し、急変時には法人内の医療機関での診療や入院の受け入れが可能であるため、ご入居者、ご家族、そして現場のスタッフも安心できる体制が整っています。感染防止対策の徹底、万が一感染者が出た場合の対応方法等の勉強会、必要物品の備蓄などコロナ対策も強化しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームの名称「咲顔(えがお)」はたくさんの笑顔の花を咲かせたいという思いから名づけられた。コロナ禍の今、職員は出勤前の体調確認、消毒を徹底しながら、明るい気持ちで過ごすようにしている。利用者にとって楽しみな外出も制限されているが、敷地内の散歩や敷地内での食事、イベントを楽しめるよう工夫している。入浴は一人ひとりとゆっくり話ができる時間として大切に、会話を楽しみながら支援している。行政や外部の専門職と協力して認知症の人を抱える家族への支援活動をおこない、大規模災害対策の一貫として地域住民にも役立つ防災倉庫の設置を検討するなど、地域活動にも目を向けている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方々にも温かく見守って頂きながら、ご入居の皆様を支えていけるよう「あかるく やさしく あたたかい介護」を理念として掲げている。施設内に掲示し職員が常に意識しながら支援にあたるようにしている。	ホーム名の「咲顔」は「あかるく やさしく あたたかい介護」という理念にもつながっている。コロナ禍の制約の中でも、職員は利用者も職員も明るい気持ちで過ごせるように理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、清掃活動、防災訓練などの行事に参加している。毎年春詣りでかける近くの神社の除草作業に年数回参加し、地域の方々の様子や困りごとなどのお話をうかがう機会もある。	馴染みのパン屋に散歩がてら出かけたり、近隣の人に庭の花をもらうこともある。中学生の職業体験や、大学の実習生を受け入れている。地域での合同避難訓練や炊き出しなども計画しており、実現が期待される。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの職員がおり、コロナの感染状況が落ち着いた段階で地域包括と連携し、認知症サポーター養成講座の実施を検討している。近隣住民からの電話による相談も多く、適切な支援に繋がるよう助言している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活の様子や取り組みを、写真を交え報告し、参加者からの意見や要望をもとに、サービスの向上に活かしている。例えば面会制限中のため状況を詳しく知りたいという家族からの要望に対し、電話での報告回数を増やしたり、書面での近況報告を充実させ対応している。	会議の案内は事前に関係者に議題を伝え、区長や民生委員へは、直接出席の依頼に出向いている。家族には電話で伝えている。また、地域の人々に向けて、介護予防、家庭の災害対策、家族の介護技術などをまとめ紹介している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での報告の他、認知症初期集中支援チームのチーム員会議の場での情報交換・共有を図っている。市の担当者とは電話やメールで連絡を取り合い、困りごとの相談にのって頂いたり、状況報告を行っている。	行政とは日頃からやり取りをしている。地域密着型サービス事業所連絡会にも出席して情報交換をしている。行政と連携して、地域の専門医、保健師、社会福祉士など専門職がチームを組み、認知症の人の家族への支援活動をおこなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束となる行為についての正しい知識と、それらの行為をしないためのケアのあり方について定期的に勉強会を実施している。	今年度の研修は「グループホームですべきこと」「スピーチロックについて考える」「認知症の方への支援のありかた」をテーマに実施した。また、日常のケアや声掛けで「おや？」と思うことや「適切ではない」と感じる事などの事例研修をおこなっている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束とともに、虐待についても勉強会を定期的に繰り返すことで、共通理解を深めている。日頃から職員間で話し合い、注意し合いながら虐待や不適切なケアが起こらないようチームで取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年度は外部研修への参加を見合わせているため、資料を作成、配布し理解を深めている。実際成年後見制度を利用している入居者も2名おられ、後見人との連絡調整等の対応を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり説明を行い、納得頂いている。契約後、変更があった際は変更内容を説明の上、同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話で日頃の様子を報告する際、家族の意向や要望を伺っている。入居者の話しは、居室や入浴介助の際など1対1でゆっくり向き合える時間に傾聴している。聞き取った事項を職員間で共有し反映させるよう取り組んでいる。	利用者の意見は普段の会話の中で聞いている。家族とは受診同行時や来訪時に直接話をしたり、電話で話をしている。家族からは災害時対策や事業所だよりを充実してほしいという意見があり、対応した事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善会議を定期的開催している。あがった意見・要望を代表者に報告し、介護用品や感染対策物品の購入、施設の修繕等に反映されている。	会議の前にそれぞれの職員が書面に意見をまとめている。職員全員で集まるのが容易ではなく、時間帯をずらし、日程を調整しながら会議を実施している。急ぎのテーマは申し送りノートで共有し、次の会議で経過を報告して再検討することもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、自己評価が実施され、個々に努力した事、貢献した事等をアピールする機会が設けられており、上司からの評価もフィードバックされる。評価は給与や昇進に反映される。評価基準が具体的に示されているため、向上心ややりがいに繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量、経験に合った研修、学会等への参加を希望する職員や、資格取得を目指す職員に対して、法人から費用や勤務調整等のサポートが得られるなど、働きながら学べる環境が整っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人主催の医療介護連携会議、地域密着型サービス事業者連絡会、ケアマネジメント研修などに参加し同業者や他職種との交流を図り資質、サービスの向上につなげている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接の際に、本人・家族の意向や要望を確認するとともに、不安を軽減できるよう本人の生活歴、趣味、嗜好などの情報収集を行い、入所後の対応にいかしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際して、家族が抱えている不安を一つ一つ丁寧に聞き取りながら、それに対する対応や対処方法を提示し、共に本人を支えるというスタンスで関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族からの情報収集の他、前任のケアマネジャーやMSWなどと連携し、適切な支援の提供に努めている。医療ニーズに対しては、医療連携看護師、主治医、医療機関との連携を密にし生活上の注意点などを把握し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の有する力を引き出しながら、できる事の継続、したい事の実現に向け共に取り組んでいる。得意分野を活かし、共同生活における役割を担って頂き、共に支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会もままならない状況下であるが、家族への連絡を密にし、状態を理解してもらいながら、手紙、電話、必要物品の差し入れなどできる範囲で本人の支えになって頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との面会はガラス越しではあるが継続している。家族に依頼して手紙やカードを送って頂き、お返事を書くなどして繋がりを感じてもらっている。電話での会話が可能な方は随時電話の取次ぎを行っている。	入居時に今までの馴染みの人、場所などについて把握するようにしている。長年デイサービスを利用していた当時の友人との関係継続も支援している。新しい利用者には、レクリエーションや歓迎会、認知症カフェなどで新たな関係作りを支援したいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士が交流しやすいよう座席の配慮をしたり、入居者同士が協力し合えるような家事活動や共に楽しめるレクリエーションの場を提供している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院のため退所された方は、入院先に出向き状態の確認をしたり必要に応じ情報提供を行っている。亡くなられた方については写真のデータを提供したり、家族のグループケアも行っている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中の様々な場面で本人の選択を尊重している。日々のケアの中で聞き取ったことや気づきを申し送りノート等で共有しケアに反映させている。意思疎通の困難な方については仕草や表情や、家族からの情報等から意向の把握に努めている。	入浴支援中や、夜間帯、職員と一対一になれる場面で話を聞くことが多いので、得た情報は皆で共有している。アセスメントで家族などから聞いた情報から把握することもある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からの聞き取りの他、主治医や前任のケアマネジャー、入居前に利用していた事業所の担当者などから広く情報を集め、これまでの暮らし方の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りで、些細な気づきであっても共有し、心身状態の変化を見逃さないよう努めている。本人の意向、能力、スレックス等についても、会議や日誌などで情報共有し、できる事に着目し活気ある生活の支援に力を注いでいる。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向、要望を聞き取り、職員の気づきや主治医、医療連携看護師からの助言などを踏まえ、現状に即した介護計画の作成に努めている。	介護計画は、利用者や家族の意向を踏まえ、職員、看護師などの意見も聞いてケアマネジャーが作成している。また、定期的にモニタリングを実施して、次の計画につなげている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の他申し送りノートを活用し情報共有を図っている。月1回のケース会議で、プラン通りに実践できているかの確認と、すぐわかない点、新たなニーズなどを検討しプランの見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物の代行、受診の対応、電話の取次ぎ、外出の送迎、付き添いなど、本人及び家族の多様なニーズにできるだけ応えている。			

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの店への買い物、地域のお祭りへの参加、ボランティアさんとの交流などを継続してきたが、現在は見合わせている状況。馴染みの移動美容室は感染対策を十分に講じて頂いた上で利用を継続している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を尊重し、かかりつけ医への受診に同行し医師への状態報告や相談を行い、医師からの指示や助言を受け対応している。かかりつけ医がいない場合や緊急時には、専門医の紹介や受診手配、対応を行っている。	母体法人の医療機関が協力病院となっており、利用者の健康管理をしている。これまでのかかりつけ医を受診したいという意向があれば尊重している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回以上、医療連携看護師の訪問があり、心身状態の確認、把握をもらい、処置や受診の指示を受けている。24時間オンコール体制となっており、必要に応じいつでも相談したり指示を仰ぐことができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	速やかに介護サマリ等の必要な情報提供を行うと共に、家族を交え医師、MSW、看護師等から入院中の状態確認を行っている。早期退院に向け、こまめに面会に出向き、食事介助など施設生活への復帰に向けた支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応に係る指針を示し、説明を行うと共に家族の意向を確認している。終末期の在り方は、体調の変化などがあつた際やケアプランの更新の際など折に触れ話し合う機会を設けている。終末期には医療連携看護師の指導・助言や医師からのメンテラを家族と共に受け情報を共有しながら支援している。	利用者本人、家族の意向、意思を尊重している。看取りを希望する場合は、訪問診療、訪問看護の体制をつくり、職員、家族が連携して進めている。また、看取り後には振り返りを行っている。今後看取りの事例で研修をしたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時の研修で、応急手当・心肺蘇生・緊急時の対応等の講義を受講する。その後も医療連携看護師による指導を受けるなど施設内研修で繰り返し学ぶ機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を概ね年3回実施している。契約している警備会社に依頼し実際に災害が起きた時とすべき対応の説明を受けたり応援体制の確認を行っている。水害対策については排水路の整備を実施。	大規模災害が発生した場合、ホームだけでなく、地域住民の助けになるよう防災倉庫の設置を検討している。浸水被害を受けた排水路はその後、雨水が流れやすくなるよう排水路の工事を実施済である。	職員全員が、非常災害時に適切な行動がとれるように、引き続き有効な訓練を実施することが期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的実施している勉強会では適切な言葉かけや対応について繰り返し学び、日頃の対応やプライバシー保護について振り返り、適切なケアの実践に努めている。	言葉遣いなどは、その場で注意しなければ忘れてしまう為、その場で注意し合える関係作りが大切と考えている。職員は日々、利用者を尊重した支援に心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の様々な場面で自己選択、自己決定ができるよう心掛けている。本人の希望や不満を個別に傾聴する機会を設け、家族の協力を得ながら実現や解決に向け取り組んでいる。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まった日課を定めておらず、入居者個々の希望、その日の体調や気分に応じて、本人の生活スタイルやペースを大切にしながら支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に移動美容室を依頼し、希望者が利用し、リフレッシュしている。化粧や髭剃りといったみだしなみの習慣を継続できるよう、必要物品の準備や支援を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は外注の厨房職員が作っているが、盛り付け、配膳、片付けなどを入居者と職員が一緒に行っている。おまかせクッキングという行事の際には、食べたい物や旬のものなど、一緒に献立を決め、調理にも参加してもらうなどして楽しんでいる。	厨房の職員とは日常的に話をすることが多く、イベント時には急遽おやつを提供してもらう事もある。職員は利用者と一緒に食事をすることで、硬いものがあつた場合などはすぐに口大にカットしたり、味の濃さ等についても対応できるため、利用者との会話を楽しみながら一緒に食事をするにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事を都度チェックし、必要に応じ代替品を用意し提供している。それぞれの好みを把握し美味しく必要量が摂れるよう工夫している。拒否のある方に対しては医療との連携や家族の協力のもとできる限りの支援を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の口腔内の状態に合わせた用具を使用して口腔ケアを実施し、残渣物を残さないよう支援している。			

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で個々の排泄パターンの把握に努め、声掛け、誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。尿意便意を伝えられない方も表情や仕草を見逃さずタイミングよく誘導できるよう努めている。	個々の排泄パターンを把握するとともに利用者のしぐさなどから、適時声掛け、誘導することが必要だと考えている。また、トイレ誘導がうまくいった体験は職員間で共有している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、本人の体調、体質、生活状況に合わせ、野菜ジュース、果物、乳製品等を提供したり、水分摂取、運動を促すなど工夫している。医療連携看護師に相談しながら便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴についての個々の希望・意向や、その日の体調に合わせて支援している。1対1でゆっくりとコミュニケーションがとれる時間を大切に、楽しみな時間となるよう心掛けている。入浴後の職員によるブローを楽しみにしている方も多い。	入浴時は職員と利用者のコミュニケーションの機会となっており、普段聞けない本音が聞けることもある。入浴後には保湿剤などで皮膚のケアもおこなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活スタイル、習慣、体調などに応じて休息がとれるよう支援している。夜間は室温、照明など個々の希望に合わせた環境を整え安眠できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を個人ファイルに綴じ、職員は薬の効能、用法、副作用等を理解、確認している。特に薬に変更があった場合は申し送りを徹底し、経過観察、記録をとり医師への報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節行事や、日々のレクリエーションを企画し、楽しんでもらえるよう努めている。得意なことを活かした活動や、目標をたてた機能訓練への取り組みなど張り合いのある生活となるような個別支援も実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内の散歩、外気浴の他、洗濯物干し、ゴミ捨てなどの役割を担ってもらい外に出る機会を増やしている。その他の外出行事は現在は中止としている。	例年は初詣、花見、いちご狩りやぶどう狩りなど、季節ごとに外出の機会をつくっている。また、買い物や近隣の散歩などに出ている。今年度はコロナ禍により外出ができないため、敷地内散歩や外気浴をしている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している入居者については、保管状況を確認しながら支援を行っている。現金を所持していない入居者は家族の了承のもと施設で立替を行い支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人・家族の希望に応じ、随時電話の取次ぎを行っている。海外在住の家族からの国際電話も定期的にある。手紙のやりとりや、テレビ電話で孫やひ孫の様子を見て喜ぶ姿も見受けられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに入居者と職員が協働で装飾制作を行い、リビングや廊下に飾り付けている。施設内はバリアフリーで、要所要所に手すりを設け安全に配慮している。温度・湿度・採光など高齢者にとって適切で過ごしやすい環境であると同時に、日常生活の場として寛げる空間となるよう配慮している。	利用者と一緒につくった飾りで季節を認識できるようにしている。現在職員は常時マスク着用で、換気、消毒、湿度管理により感染症対策をしている。また、洗面台やトイレなどは時間を決めて清掃と消毒をおこなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係性、支援の必要度合い、本人の希望等に応じて共用スペースでの席の配置を工夫している。移動に介助が必要な方には声掛けし居場所を選択できるよう配慮し対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談し、リロケーションダメージ軽減のため、馴染みの家具や生活道具を持ち込み寛げる居室作りを心掛けている。希望によりテレビを設置したり家族の写真を飾ったりそれぞれ居心地よい環境となるよう工夫している。	入居時は自宅で利用者が大切にしていたものを持ち込み、部屋作りをしている。入居後も利用者と家族が模様替えしながら、居心地のよい部屋になるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーとなっている。見当識障害の方も自分の居室やトイレを認識できるようネームプレートや標識を設置している。安全に移動できるよう廊下・トイレ・浴室には手すりが設置されている。		

【評価機関】